

富山県発! 頑張る企業の経営者は想いを語る

オールマイティなグループ(分社)体制で お客様に幅広いサービスを提供!

立山マシン株式会社
代表取締役社長 宮野兼美氏

分社体制の目的と利点

私達立山マシン株式会社(以下、立山マシン)が属する立山科学グループは、事業毎に分社制度をとっており、立山マシンはその一番最初に設立された会社です。立山科学グループが分社制度をとってきた背景には、3つあります。それは①事業毎に、よりお客様に密着して仕事を進めるため。そして、②若手経営者を育成するため、OJT方式で取り組み、③事業毎にその経営の権限を委譲しております。現在、11あるグループ会社で構成される立山科学グループは、その背景から異業種集団とも言えるでしょう。それぞれの会社に強みがあり、あらゆるお客様のご要望に対応できる体制ができていると自負しております。

この強みを最大限に活かした事例として、当社独自で開発したセキュリティシステムがあります。これは、ある大手の企業様が当社のセキュリティを調査にこられた際、100点満点中50点という評価でした。そのため、当社に仕事を依頼することに不安があると厳しいお言葉をいただき、3ヵ月後に再審査となりました。我々はグループ会社



製造現場



社の総力をあげて、この課題に取り組み、3ヵ月後には98点の評価をいただけるセキュリティシステムを独自で開発し、設置いたしました。単純にセキュリティシステムを開発するといっても、ほとんどを自社事業でまかなうことは、とても大変なことです。これと同様に、一つのグループ会社が抱えた課題を、即座にグループ各社の力を連携させて解決することができることは、我々の最大の強みであると考えております。

分社体制を活かすポイント

このような強みを可能にしているのが、グループ内の緻密な連携です。まずは、トップ間の会合を毎月行い、情報交流を行っています。各社が抱える課題を全社のトップで話し合い、解決することで、グループ会社毎の横の連携を図ってきました。

また、人材の育成については、グループ一括で



管理部が行っております。グループ全体における事業の方向性の統一、そして社員の意識統一を図っています。「人」という字を英字の「人」に例え、「プロジェクト」と称して、力を入れてきました。分社化するべきところは分社化し、統一すべき部分は立山科学グループの独立部署として設置することで、全体の統一が図れてきたのではないかと考えています。その結果、お客様からいただいたご要望は、ほぼ100%グループ会社で対応することができます。

経営とは「現在」に対応しながら 「未来」を見据えるもの

このような企業体質の中で、経営とは「現在」に対応しながら「未来」を見据えていかなければならないものと考えています。「現在」会社を支えるためにしなければならない仕事に取り組むことは当然ですが、そればかりに集中しては先々足をすくわれる事態に陥る可能性があります。「現在」ある仕事に取り組むながらも、この先「未来」はどうなるのか、どうしていかなければならないのか、策を練ることが「経営」であると考えています。そういった中で、「未来」を見据えて次の商品開発を考える時に重要となる

のが、「スピード」です。しかし、企業の中だけでは、限界があります。人の不足はもちろんですが、知識の不足もあります。そこで、特に「知識の不足」では大学と連携を図ることで、解決していくでしょう。

また、大学にはシーズが溢れており、企業では市場から得られたニーズを抱えています。産学連携は、双方が不足している、つまり求めているものを補い、より良い実用化に基づいた研究を可能にします。海外では、優秀な企業は必ずと言って良い程、大学が関わっています。日本もそういう風潮になってきていると思います。今後もこのような点を考慮し、大学とも連携して会社の力を強めていきたいと考えています。



グループ方針の下、一丸となって日々業務に取り組んでいます